

2020年1月29日

第73回社会保障審議会医療部会



在宅での療養継続を 可能にする外来における看護



生きるを、ともに、つくる。

公益社団法人 日本看護協会

外来における看護師の役割・機能

外来において、看護師は、検査・処置・治療などの介助のみならず、その人の生活を踏まえた療養指導・相談対応などを実施している。

■看護師が行う療養指導のイメージ

【対象】

退院後や通院中に、疾患を持ちながら地域で療養・社会生活を送るために支援が必要な患者・家族

【目的・内容】

生活が円滑に送れるよう、医師の指示を受け、生活に伴う症状の改善や自己管理の支援を継続的に行う。



【機会・場所】

医師の診察の合間に必要に合わせて行う場合や、場所を確保し個別に時間を設けて実施する場合(例:看護外来)などがある。

画一的ではない、
個々の患者のライフスタイルに
合わせた指導や専門的支援を
担当の看護師が行う。

(平成22年度 日本看護協会業務委員会資料を一部改変)

【看護師が療養指導を行う外来(看護外来)の設置状況】(2018年病院看護実態調査)

- ・「看護外来」がある病院は、約半数(1,651/3,634病院)
- ・看護外来のある病院のうち、看護外来での指導を行っている分野は、「糖尿病生活指導」、「フットケア」、「ストーマ管理」の割合が高い

外来における看護師の療養指導の効果①

慢性心不全をもつ外来患者に対して、看護師が療養指導を6ヶ月間継続的に実施することで、BNPが低下したり、息切れ症状のある患者の割合が低下する

BNP: Brain Natriuretic Peptide (脳性ナトリウム利尿ペプチド)

■ 対象: 慢性心不全をもつ外来患者

■ 介入: 塩分制限、食事や運動、禁煙、薬などに関する療養指導を6ヶ月間継続的に実施

表1 BNP平均値の変化

- 介入群(継続的な外来看護)でBNPが低下した

(pg/mL)

	初回	3ヵ月後	6ヵ月後
介入群 n=49	153.2	124.1	111.2
対照群 n=47	163.6	165.3	197.9

表2 心不全症状(息切れ)の有無

- 介入群(継続的な外来看護)で息切れ症状のある患者割合が低下した

(%)

	初回	3ヵ月後	6ヵ月後	9ヵ月後	12ヵ月後
介入群 n=49	10.2	6.1	10.2	6.1	6.4
対照群 n=47	12.8	21.3	23.4	25.5	23.4

出典: Otsu H, et al. Effectiveness of an educational self-management program for outpatients with chronic heart failure. Jpn J Nurs Sci 2011;8(2):140-52. (一部改変)

外来における看護師の療養指導の効果②

切迫性尿失禁をもつ外来患者に対して、看護師が膀胱訓練や骨盤底筋運動など自己管理指導を実施することで、1回排尿量の増加および夜間の排尿回数が減少する。その結果、QOL(生活の質)が向上する。

- 対象:切迫性尿失禁をもつ外来患者
- 介入:自己管理指導プログラムに沿って尿意の制御や膀胱訓練、骨盤底筋運動、水分摂取や寒冷刺激の緩和などの生活調整などに関する自己管理指導を、尿失禁看護外来初回利用時に約1時間実施

表 介入前後の変化

- 介入1か月後に、1回排尿量の増加と夜間の排尿回数の減少を認め、QOLが上昇した

※wilcoxonの順位和検定

	介入前 n=21	介入後 n=21	p値※
IQOL得点 -点(平均値)	76.4	80.3	<0.05
1回排尿量 -mL(平均値)	186	219	<0.001
夜間排尿回数 -名 (夜間オムツ着用者3名を除く)	0回	3	<0.01
	1回	3	
	2回	8	
	3回以上	4	

IQOL: Incontinence Quality of Life Questionnaire (尿失禁QOL質問票)

出典: 高植幸子, 林智世. 切迫性尿失禁をもつ外来患者のためのコーチングを用いた自己管理指導プログラムの短期的評価. 日本看護技術学会誌 2014;12(3):40-9.(一部改変)

【参考】外来での看護師による具体的な指導内容(例)

対象	外来での看護師による具体的な指導内容
糖尿病	・重症化予防のため、食事、運動、栄養、血糖コントロール、足のケア、透析予防のための指導や、生活上で困っていることの相談対応などを行う。
ストーマ	・人工肛門、人工膀胱の装具の選択、交換方法、皮膚トラブルへの対処方法の指導などのセルフケア支援、精神的支援や生活上の相談対応などを行う。
がん化学療法	・副作用症状の緩和およびセルフケア支援、薬の安全な取り扱いと適切な投薬管理、治療に関する意思決定支援などを行う。
呼吸器疾患	・在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法を行う患者などの症状コントロール、日常生活を踏まえた増悪予防の指導、呼吸リハビリテーション、禁煙指導などを行う。
循環器疾患	・動悸、息切れ、浮腫などの苦痛症状の緩和、増悪予防の指導などを行う。
腹膜透析	・感染予防など安全に実施するための知識、技術の指導、相談対応などを行う。
認知症	・認知症のケア方法、対応方法、本人・家族への指導、相談対応などを行う。
摂食・嚥下障害	・摂食嚥下障害患者が安全に食べるための方法やリハビリテーション、誤嚥防止のケアなどを行う。
失禁、排尿障害	・尿もれや排尿障害などによる日常生活上の困難や悩みを改善するための治療に関する情報提供や指導、相談対応などを行う。
遺伝相談	・さまざまな疾患の遺伝に関する不安や疑問などの相談対応や医療の選択に関する意思決定支援などを行う。